

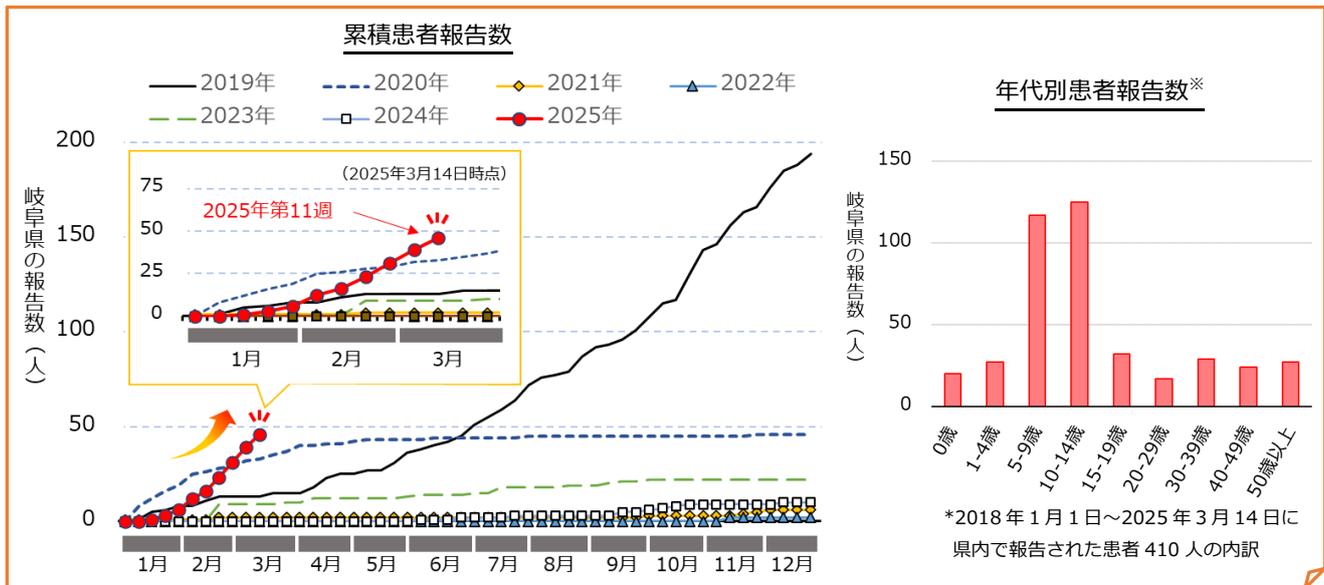
# ぎふ感染症かわら版

令和7年3月21日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）



## 百日咳の患者報告数が増加しています

百日咳は、百日咳菌による感染症です。季節を問わず、15歳未満の小児を中心に、幅広い世代で発病しますが、特に1歳未満の乳児は重症化するリスクが高く注意が必要です。



### 感染に注意が必要な人

- ◆ 1歳未満の乳児（特に6カ月未満の乳児）
  - 母親から免疫が十分に伝わらないため、乳児期早期から発病の可能性があります。
  - 重症化する可能性が高く、死亡例の大半はこの年代が占めています。



### ワクチン接種について



百日咳にはワクチンがあります。**お子さんは生後2か月になると定期接種の対象となります**ので、早めに1回目の接種を始め、その後3回（計4回）の接種を必ず受けましょう。また、任意接種となりますが、5～6歳及び11～12歳のご兄弟がいる方については、ご兄弟への三種混合ワクチンの接種も可能ですので、ご検討ください。

百日咳菌は、感染している人の咳やくしゃみのしぶきによる**飛沫感染**や、菌に触れた手指などを介した**接触感染**でうつります。また、百日咳菌の感染力はとても強いため、家庭内や学校などで感染が広がってしまうことが多いです。

### 治療と予防について

- 咳が長引く場合は、早めに医療機関への受診をお願いします。
- 日常での感染対策（手洗い、マスクの着用や咳エチケットなど）をお願いします。



保育所や幼稚園、高齢者施設など、希望される施設に対して「ぎふ感染症かわら版」のメール配信もおこなっています。くわしくは岐阜県感染症情報センターホームページをご覧ください。

岐阜県感染症情報センター

